

腎臓病 早期発見、治療を

来月10日
大分市で講座

世界腎臓デー(3月9日)に合わせ、大分県保険者協議会や大分市などは3月10日午後1時から、大分市のコンパルホールで市民公開講座「来て見てガッテン 腎臓のこと」を開く。入場無料。

大分大医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座の柴田洋孝教授と福長直也助教は次のように話し、会場を呼び掛けている。

慢性腎臓病は腎臓が傷つき血液をろ過できず老廃物が体内にたまる病気で、

①尿検査での異常の持続②腎臓のろ過機能の指標となる推算糸球体濾過量が60ミリ分/分/1.73平方メートル未満への低下のいずれかの状態が3カ月以上続くと診断されます。



柴田洋孝教授



福長直也助教

日本人は成人の8人に1人が慢性腎臓病と推測されています。大分県の人口当たり透析患者数は全国で第3位。対策は急務です。

早期発見が重要で、健診で疑わしい結果が出たら、病院で受診して治療を開始してください。発症後の進行を防ぐためには肥満や高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病の管理が求められます。禁煙や適度な運動などの生活習慣の改善、減塩などの食事療法などで進行を防ぐこともできます。

原因として糖尿病や慢性糸球体腎炎、高血圧症などがあります。進行し、末期腎不全になると透析療法な

る。予約が必要で席に余裕があれば当日も受け付ける。代表者の氏名と人数、連絡先を記入し、大分市保健所健康課(ファクス097・532・3250、メールkenko@city.oita.jp)などで申し込む。問い合わせも同課(097・536・2562)へ。

公開講座では、大分県内の医師が糖尿病や慢性腎臓病、食事や生活で気を付けることを解説する。減塩料理を紹介するブースを設ける。

予約が必要で席に余裕があれば当日も受け付ける。代表者の氏名と人数、連絡先を記入し、大分市保健所健康課(ファクス097・532・3250、メールkenko@city.oita.jp)などで申し込む。問い合わせも同課(097・536・2562)へ。